



執行役員

北沢 一幸

Kazuyuki Kitazawa

「業界のトップブランド」目指した

2007年の4月より始めました第5次中期経営計画の一番の大きな目標は、「当社の3つのブランドを、それぞれの業界のトップブランドにする」ということです。多様化する市場ニーズに応え、新製品を企画開発・立ち上げ・市場投入することは、モノづくり企業が進化し発展するための大きな課題です。日本のモノづくりは、生産拠点を海外に求めたかつての「空洞化現象」から「国内回帰現象」へと進んできています。

当社のモノづくり体制も、新製品の企画・技術開発はテクノロジーセンターに技術陣を集約し対応を図っております。開発された製品のモノづくりにおいては、その製品の特性に合わせて大量生産品を海外の生産拠点に展開し、高機能製品、多品種少量製品、短納期製品を国内の生産拠点で対応しています。また、国内生産対応品で、今後さらに受注の増加が期待されるサーボモーター・リニアモーター・FA向けステッピングモーターの製造工程を集約した生産の新拠点として、新工場「神川工場」の建設にも着手し、「業界No.1のモーター工場」を目指し、充実した拠点の強化を図ろうとしています。

新製品の企画・技術開発においては、「新製品を顧客ニーズを喚起するような製品に仕立て上げること」がモノづくり企業の本来の仕事の姿です。企画した新製品の開発目標に対し、常識を超越した夢のあるアイデアをもって製品化を実現することはたやすいことではありません。目標達成に向け、机上検討シミュレーションに加え試作評価を実施し、試行錯誤の繰り返しです。そして、その新製品が企画通りの実績で、生産立ち上げが実現できればもっともうれしいことです。

企業の生き残りに欠かせない時代のバイブルとして、新しい技術に果敢にチャレンジし、新製品を次から次へと生み出していくこと、そしてその開発件数と質、スピードが企業の底力となります。その原動力となるものは、なにか？それは「人」です。その「人」の持っている技能・技術を最大限に活用し、新製品の開発から生産工程設計および新規設備の開発につなげていくことが仕組み

「モノづくり技術」の展開

構築では重要になります。新たな技術・技能をどのように築き上げるか、「企業は人なり」の原点に立って、人の「ヤル気」をもって技術・技能のレベルアップにつなげることにより、レベルアップした「技術・技能」が仕組み構築の礎となります。

仕組み構築としては、サーボモータの製造部門において社員の意識高揚を目的に3年前よりスタートした「礎道場」があります。この活動は、社員の「ヤル気・動機付け」に大きく貢献し、今や全事業部の活動にまで発展しています。クーリングシステム事業部では、新規開発品において簡易金型工法の取組みを開始しました。開発期間の短縮はもちろんのこと、金型品での機能評価およびお客さまへのサンプル供給までの期間が大幅に短縮されました。また、この仕組みの確立により製品の競争力とお客さまへのサービスも大幅に向上しました。

サーボシステム事業部では、新規開発製品の生産工程に開発時点から新製品に要求される性能機能に加え、生産工程設計も同時に行い、作業要領を電子化し、各工程の完了確認を行う自己完結型の「生産誘導システム」を確立しました。品質の検証では、検査工程の合否判定を自動化した「検査オンラインシステム」とその仕組みが確立され、製造品質とお客さまへの納期対応にも大きく貢献しました。また、「人」の技能向上では、継続的な技能の継承とスキルアップが必要であることから、この仕組みづくりとして「匠道場」を開設し、手作業の3要素「カシメ作業・ネジ締め作業・半田付け作業」と「NC工作機操作の技能向上」を目指し、中堅社員を対象に教育訓練を開始しました。そして「仕組みづくりの取組み」をさらに強固に展開し、企業の本動力につなげようとしています。

本誌にまとめられた2007年の技術成果は、新規開発された製品を通し、お客さまの満足度を達成し、それが当社の社員満足度につながり、養われた技術は継続的に発展するモノづくり企業の礎となります。それにより、当社の3つのブランドが業界のトップブランドになることを確信しています。